

令和4年度第1回 屋久島地域入退院支援ルール運用に係るメンテナンス会議 実施記録

1 日時 令和4年6月16日（木）14時～15時30分

2 会場 屋久島町役場 本庁 2階会議室

3 参加者 屋久島徳洲会病院，ケアマネ協議会，包括支援センター，介護事業所2か所，
屋久島町，屋久島保健所 各1人の計7人

4 内容

(1) 入退院支援ルール運用について

① 入退院支援ルールに係るアンケートは，今年度は1回にすることに了承を得た。

理由：年2回実施はケアマネの負担が大きい，他の圏域の殆どは年1回である。

管内の運用率も95%以上で目標達成しており，関係職種の連携が図られている。

運用率の低下や連携の問題が生じた際は，回数など対応を当会議で検討する。

② 年間スケジュールは，アンケートは年1回，メンテナンス会議は年2回で，運用状況と在宅医療・介護連携についての意見交換を行うことの了承を得た。

③ 急な退院への対応について

以下の状況があることを共通理解した。

- ・入院による環境変化により離院傾向が出現し，安全確保のため急な退院がある。
- ・退院の説明について，Drは家族に，Nsはケアマネに行くことが多く，ケアマネが把握していないこともあり得る。
- ・退院が近いと聞いた家族が『退院が決まった』と勘違いし，ケアマネに伝えることもある。
- ・リハ病棟などは退院の見通しが立つが，そうでない病棟もある。
- ・入院時に退院予定をたてるが，検査状況により計画作成に時間が場合も多い。

(2) 診療所との連携について

診療所との連携はとれているとの認識を共有した。

(3) 最期まで自分らしく，自分の望む生活について

- ・がん療養者は入院機関で説明を受け，自分の生き方を選択して帰島しており，意向を随時確認できる。急激な変化もあり意向確認は重要である。
- ・病院では家族の意向が強い患者が見受けられる。
- ・ADL維持のためサービス受けている要介護認定者は，『最期の過ごし方，延命など医療』の選択を殆ど認識していないが，人によっては吐露される。
- ・意向を把握する媒体はそれぞれである。
- ・プラン更新の都度，前回からの変化を確認することで意向の表出もしやすい。